



GAH

Gross Arakawa Happiness 荒川区民総幸福度

みんなでつくる
幸せのまち



RILAC

Research Institute for Local government by Arakawa City
公益財団法人荒川区自治総合研究所

だれもが幸せを感じられるまち



荒川区長・特別区長会会長
公益財団法人荒川区自治総合研究所理事長

西川 太一郎

区政の究極の目標は、区民の皆様が幸せだと感じられることです。私は、区長就任以来、子どもから高齢者まで、だれもが幸せを実感できるまち、「幸福実感都市あらかわ」の実現を目指して、区政運営に全力で取り組んでまいりました。区民の皆様の悩みや願いを受け止め、その声にこたえていくことは、区民の皆様身近な自治体だからこそできることです。

荒川区自治総合研究所では、皆様の幸福実感を高めていく「荒川区民総幸福度（グロス・アラカワ・ハッピネス：GAH）」についての研究を行っています。これは、区民の皆様の幸福度を測る指標を作成し、よりよい区政につなげていくものです。

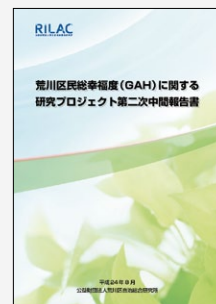
このたび、研究プロジェクトの第二次中間報告書を公表いたしました。本誌は第二次中間報告書の内容をわかりやすくまとめたものです。本誌をきっかけに、自分自身や身近な人、さらには地域の幸せについて考え、またそのために何ができるかを区民の皆様とともに考えることを通じて、だれもが幸せを感じられるまちを築いていきたいと思っております。

目 次

1 荒川区民総幸福度 (GAH) ってなに？	P2
2 荒川区民総幸福度 (GAH) 指標をつくりました	P3
3 幸福度を高める「運動」	P6
4 幸福度の向上を目指して	P7

『荒川区民総幸福度 (GAH) に関する 研究プロジェクト第二次中間報告書』を ぜひご覧ください！

報告書は荒川区自治総合研究所（区役所北庁舎3階）、区立図書館、区民事務所、情報提供コーナー（区役所本庁舎2階）で閲覧できるほか、当研究所ホームページ (<http://www.rilac.or.jp>) でご覧になれます。また、研究所では有償頒布（販売）を行っています。



1 荒川区民総幸福度（GAH） ってなに？

なぜ「幸福度」なの？

日本は豊かな国だと言われています。これまで、その国が豊かであるかどうかは、主に経済的に豊かであるかどうかで考えられてきました。しかし、経済的に豊かであっても、人々が幸せだと感じられなかったら、本当に豊かな国だとは言えないかもしれません。そこで荒川区は、幸せを実感できる区政を目指して、「荒川区民総幸福度（GAH）」の研究に取り組んできました。荒川区では、区に住んでいる人たちや、区で働いている人たちが、どれだけ幸せを感じているかを調べる指標をつくり、この指標を用いて、区民の幸福実感の向上を目指しています。

国の豊かさを国民がどれだけ幸福だと感じているかという「幸福度」で測ろうという考え方は、近年世界中で注目されてきており、荒川区の研究はその先駆的存在となっています。



あら坊

荒川区シンボルキャラクター



幸福度を測ると何の役に立つの？



あらみい

何を「幸せ」と感じるかは人それぞれですが、皆様がどれだけ幸せを感じているかを調べ、幸せでないと感じる点があればどのようなところでそう感じるのか原因を探し、課題の解決に向けた方法を検討することができます。

そこで、区民の皆様の幸福度を測る指標を用いてアンケート調査等を行い、その結果を分析して、区民の皆様が今よりもっと幸福を感じられるようになるには何が必要か、皆様とともに地域の課題を解決するにはどうすればよいかを考え、政策の立案・改善などを行いながら、よりよい区民サービスを実現していくことに役立てます。

2 荒川区民総幸福度（GAH） 指標をつくりました

荒川区民総幸福度(GAH)の指標として、「荒川区基本構想」に定める都市像をもとに、

健康・福祉、**子育て・教育**、**産業**、**環境**、**文化**、**安全・安心** という6つの分野の指標を設け、それらを束ねるものとして、**幸福実感度** という指標を設けました。今後さらに検討を進めて、よりよい指標にしながら区民の幸福度の向上を目指していきます。

幸福実感度

▶ 自分が幸せだと感じる

自分が「幸せだ」と実感している区民の方々がより増えていくことで、地域の幸福度は高まっていきます。そのため、区民の皆様がどれだけ幸せを感じているかについて、意識調査を行っていきます。

健康・福祉

▶ 健康だと感じる

人はだれでも「健康でありたい」と願います。国連で健康に関する問題を扱っている世界保健機関（WHO）は、人が健康であるためには、体と心が健康であることのほかに、健康でいられるような環境が整っている必要がある、としています。この3つを通じて、自分が「健康だ」と実感でき、幸福度が一層高まると考えられます。



転倒予防を目的とした荒川ころばん体操

この分野で調べること（指標）

体の健康

- 日頃から体を動かしたり運動したりすることができていること
- 健康的な食生活を送ることができていること
- 体を休めることができていること

心の健康

- 家族や友達など人とのつながりを感じること
- 家庭や職場などで自分の役割があること
- 心が安らぐ時間を持つことができていること

健康のための環境

- 病気やけがをした時の医療が充実していること
- 高齢者や障がい者の方々への福祉が充実していること

子育て・教育

- ▶ 子どもが健やかに成長していると感じる
- ▶ 望む子育てができていると感じる

子どもが健やかに成長していくことは、親としての大きな喜びです。一方で、子育てや教育には、責任と負担が伴います。子育てや教育を、家族だけでなく、地域全体で支援するといったような環境が整っていることは、子育てや子どもの成長をより幸せと感じることにつながっていくのではないのでしょうか。



保育園の子ども達

この分野で調べること(指標)

家族関係

- 家庭で親子のコミュニケーションが取れていること
- 家族が子育てへの理解や協力してくれていること

「生きる力」

- 子どもが規則正しい生活習慣を身につけていること
- 社会で生きていく上で必要な能力を身につけていること

子育て・教育環境

- 子育て・教育に関する様々なサービスに満足していること
- 子育て家庭に理解し、協力しようという雰囲気が地域にあること

産業

- ▶ ゆとりのある生活を送ることができていると感じる

仕事にやりがいを感じられていること、必要な収入を得られる安心感があることは、幸せなことであると考えられます。また、住んでいる地域に活気があって、お店や商店街がにぎやかなことは、買い物が便利になったり人々の気持ちが明るくなったりするなど、地域の幸福度を向上させるのではないのでしょうか。

この分野で調べること(指標)

仕事

- 収入が安定していること
- 仕事と私生活とのバランスが取れていること
- 仕事にやりがいを感じていること

地域経済

- 区内の企業に活気があること
- 買い物が便利であること
- まちに魅力があること



都内で唯一の区立遊園地「あらかわ遊園」

環境

- ▶ 暮らしやすい生活環境であると感じる

交通の便がよいことや、暮らしやすい環境が整っていることは幸せなことであると考えられます。また、将来の世代のために地球環境に気を配ることや、暮らしやすい環境をずっと守っていくことも必要なことではないのでしょうか。



多くの人でにぎわう「あらかわバラの市」

この分野で調べること(指標)

利便性・ユニバーサルデザイン

- 交通の便がよいと感じること
- 困っている人に声をかけたりすること
- 道が歩きやすいことや段差がないように建物がつくられていること

快適性

- まちなみが良いこと
- 放置自転車やごみのポイ捨てなどによる不快さを感じないこと

持続可能性

- 節電やごみを減らすことなど、地球環境に配慮した生活をしていること

文化

▶ 心のゆとり・精神的な豊かさを感じる

学習やスポーツ、趣味の活動をすることで、休日などを楽しく過ごせることは幸せなことと考えられます。また、地域の文化に根ざした伝統行事やお祭りなどに参加して、地域の人々とのあたたかいつながりを感じることができれば、その地域で暮らす人々の心も豊かになり、日々の生活に幸せを感じられるのではないのでしょうか。

この分野で調べること(指標)

余暇活動

- 余暇の過ごし方に満足していること
- 生涯にわたって学習やスポーツなど活動しやすい環境が整っていること

地域文化

- 荒川区の文化に愛着を持っていること
- 地域の人々と交流することで生活に充実感を得られていること
- 近隣に頼れる人がいること
- 異なる文化を持った方々への思いやりがあること



下町あらかわを代表する食べ物「もんじゃ焼き」

安全・安心

▶ 住んでいる地域が安全だと感じる

生活を送る上で、安全で、安心して暮らせることはとても大事なことです。犯罪や事故にまきこまれる不安や危険が少ないこと、地震や火災といった様々な災害に対して事前の備えができていることなど、不安を減らし、安心感を増していくことは、幸福度を向上させると考えます。

この分野で調べること(指標)

犯罪への不安

- 住んでいる地域で、犯罪への不安がないこと

事故の危険

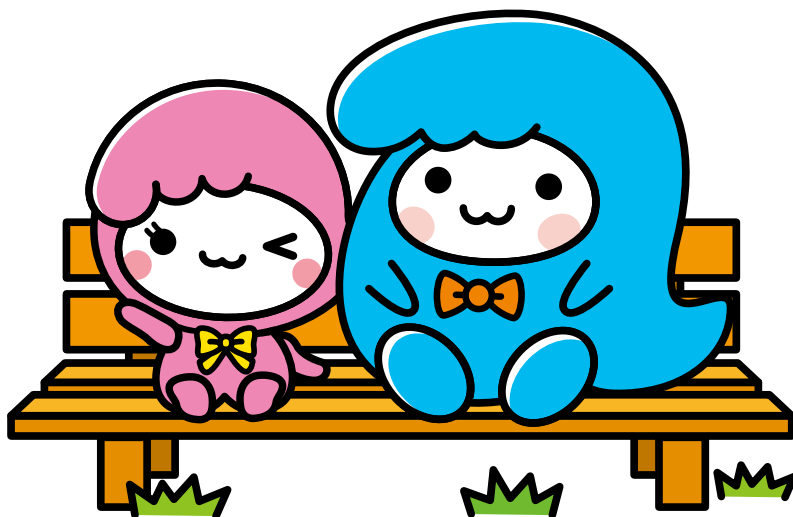
- 住んでいる地域で、交通事故の危険がないこと
- 転倒・転落などの生活上の事故の危険がないこと

災害への備え

- 地震・火災・風水害など災害に強いまちであること
- 災害が起きた時の備えができていること
- 災害が起きた時に近隣の人達と助け合う関係があること



中学生による放水訓練



3 幸福度を高める「運動」

荒川区では、荒川区民総幸福度（GAH）の指標を活用して区民の皆様の幸福度を測り、それに基づいて皆様の幸福度を高めることができるような区政運営に努めてまいります。

ただ、行政だけでは区民の皆様の幸福度を高めることはできません。荒川区にかかわるすべての人や団体が、自分自身や身近な人、さらには地域の幸せを考え、力を合わせて地域をより良くしていこうということ、すなわち「運動」を起こしていくことが、人々の幸福度を一層向上させると考えられます。

既に荒川区では、荒川区民総幸福度（GAH）の向上につながると考えられる様々な活動が行われています。この地域の力を活かし、荒川区民総幸福度（GAH）の「運動」を起こしていくことが重要と考えています。

〈荒川区民総幸福度（GAH）の向上につながると考えられる活動事例〉

町会・自治会の方々を中心として、防災訓練、防犯パトロール、環境美化や資源回収など、地域のための活動が行われています。



町会・自治会によるバケツリレー消火訓練

シルバー人材センターの方々が、小学校や学童クラブの児童の下校時の付き添いや、保育園の周辺・出入り口の見守りを行っています。



保育園に配置されている園児安全推進員

区民の方々が、育児の不安や孤立を解消するための活動を行っています。



乳幼児の保護者がほっと一息つける「子育て喫茶汐たま」

バラの管理をするボランティアサークルが、新たな観光スポットづくりに向けた活動を行っています。



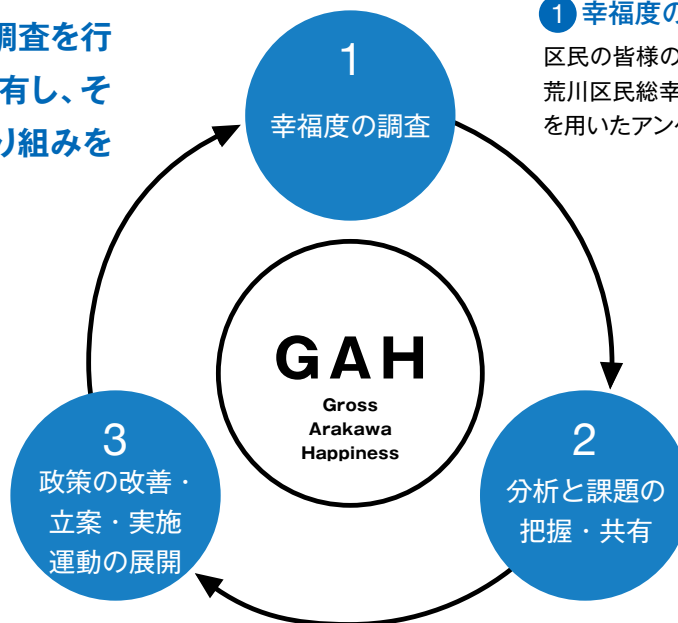
ボランティアグループ「荒川バラの会」によるバラの手入れ

4 幸福度の向上を目指して

荒川区民総幸福度 (GAH) の指標を用いて幸福度に関する調査を行い、地域の課題を把握・共有し、その解決に向けて様々な取り組みを実施していきます。

③ 政策の改善・立案・実施、運動の展開

課題解決のため、政策を改善・立案・実施したり、区に関係する人や団体が力を合わせて、地域の課題解決に向けた「運動」を展開していくことが考えられます。



① 幸福度の調査

区民の皆様の幸福実感を調べるために、荒川区民総幸福度 (GAH) に関する指標を用いたアンケート調査等を行います。

② 分析と課題の把握・共有

幸福度の調査結果を分析し、区民の皆様がどのような部分に幸せを感じているか、また、どのような部分に不幸や不安を感じ、地域がどのような課題を抱えているかを把握し、区民の皆様や行政等の間で意識共有を図ります。

指標の活用イメージ

地方自治体の取り組む根本課題



阿久戸 光晴

学校法人聖学院理事長
聖学院大学学長
荒川区民総幸福度 (GAH) に関する研究会座長

顧客の満足を無視して品を売る時代ではないように、もはや自治体が住民の幸福実感を無視して行政を行う時代ではありません。荒川区民総幸福度 (GAH) の研究は、区が区民目線に立って区民の幸福度が増すように、温かい血の通った行政サービスをしていくための世界的先端研究です。行政の究極目的を住民の幸福度向上に置き、住民の痛みを感じつつ分かち合い、踏み込んだ行政サービスを目指すという、行政の根本課題をしっかりと確認する実践的研究である第二次中間報告書には、国内外から早速大きな関心が寄せられています。この報告に即して、荒川区行政はさらに豊かな進化を遂げるでありましょう。この報告書をぜひお読みいただき、率直なご意見や貴重なコメントをお寄せください。それは、区にも、作成にかかわった関係者一同にも、大きな意味のある喜びとなりましょう。